

A

ほっかいどう

G

159

【ほっかいどう 愛護】発行/2010年7月1日 発行所/札幌市中央区北2条西7丁目かてる2・7 4F TEL.(011)271-0228 発行者/北海道知的障がい福祉協会 会長 楠 文也



道東地方会の当事者の会のシンボル



道東地方会 利用者会議グループ討議用レジメの作成風景



道東の事業所の旭山動物園見学風景



道東の事業所の旭川旅行風景から(旭岳をバックに)



当事者の会におけるレクリエーション風景

Contents

「どうなる」ではなく 「どうしなければならない」へ …②

6・9緊急フォーラム
障がい福祉の明日を拓く2010 ……④

支援研究委員を紹介します。 ……⑥

Information ……⑧

「どうなる」ではなく 「どうしなければならない」へ

北海道知的障がい福祉協会 会長 橘 文也

おかげ様を持ちまして平成21年度予定されておりました事業はほぼ実施することが出来、それに関する収支も間違ふことなく執行することが出来ました。会員皆様方の御協力、御支援に感謝申し上げます。又、先の臨時総会で前任期2年に引き続き、正・副会長4名が再任されまして今期も続投することが採決されました。もとより、微力な私ではありますが、副会長3名と密な連携を持ち大きな事は出来ませんが、細やかな実践を積み重ね責任を果たしたいと思います。永年、我が協会の為に、豊かな経験を活かし堅実な歩みに御努力いただいた前常務理事成澤さんが御勇退されたことは、大きなハンディではありますが、幸いにも後任に道庁で福祉職の経験のある佐藤さんが就任し、新年度の事務局体制の歩みを始めることが出来ました。成澤さんには深く感謝を申し上げます。

すと共に更に今後共、顧問として御指導下さいますようお願い申し上げます。

我が協会は施設、事業所が会員である所からその会員の皆様の為に事業を遂行していますが、ここ数年、福祉制度の大変革に伴い主な事業の中に対政治的活動、行政に対する要望活動など多様性が求められて来ています。残念なのが我が協会として何か発信すると施設事業所の生き残りの為の経済活動として捉えられがちな事があります。利用者の為に誤解の無い様な行動と発言がなければならない、いつも思います。「施設、事業所はどうなるのだろう」と不安げに言う人が全国に沢山いるようですが「どうなるのだろう」ではなく、「どうしなければならないのだろう」であります。今更ではありますが福祉の援助を求めている、又は、必要としている人達に

対して、どの様に伝えていけば良いのか、マネジメントがあり、実践していく、その場のひとつとして福祉施設、事業所があり、支援を受け持つ人がいる。施設があって利用する人がいるのではなく、利用希望者が居て求められる施設があるのであります。質の高い支援を幅広く提供していく努力を致しましょう。不備な法制度の問題は多くありますが、明るく積極的な行動、実践を心掛けていきたいものです。

地域主権が進められることによって、地域間格差の問題が危惧されておりますが、協会は情報交換の場としても存在意義を持たなければなりません。関係団体ともお付き合いを深め協会そのものの質を高める努力もさせていただきます。重責を果たしたいと思います。

皆様方の御協力、御支援の程をお願い申し上げます。

平成22・23年度役員のみなさん



光増 昌久



上坂 隆一



出店 正隆

就任挨拶

長年にわたり本会の発展にご尽力いただき、ご勇退されました成澤常務理事・事務局長の後任の佐藤です。4月1日に採用となり、約3か月が経ちました。この間、お会いした皆様は、いつも障がいのある人が中心で、障がいのある人が真に望んでいる思いの実現に向けて常に行動しているということでした。

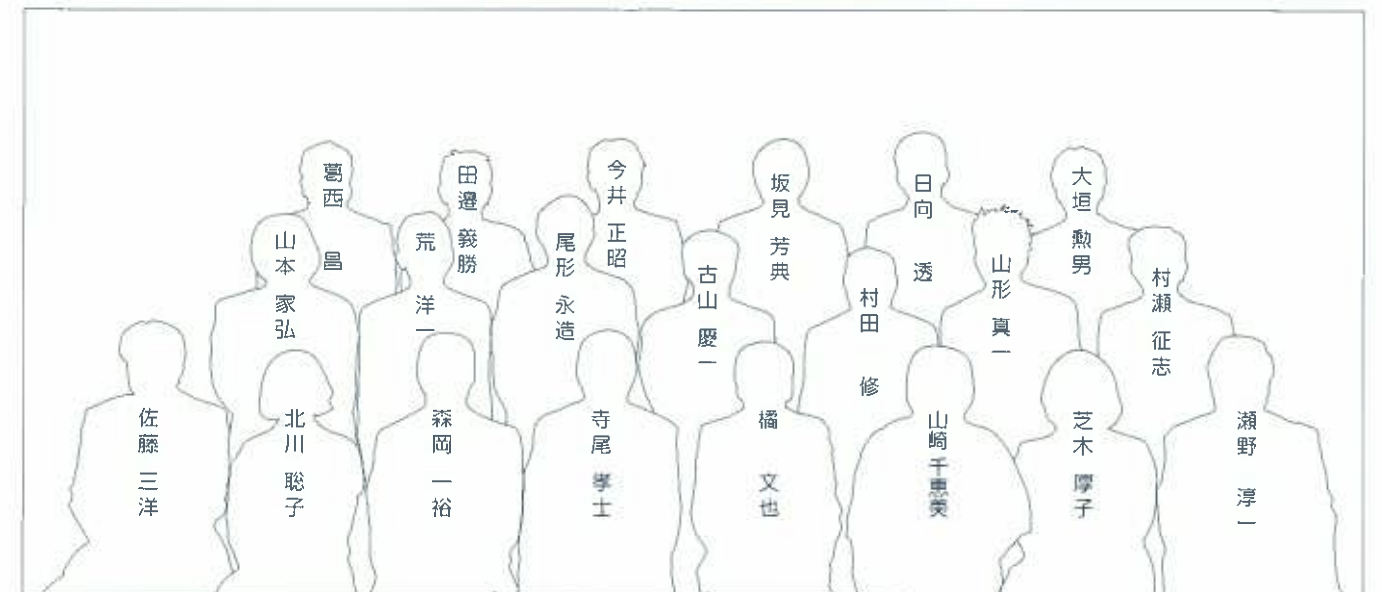
ご承知のとおり、現行の「障害者自立支援法」では、障がい者の社会参加や生活に支障が生じていることから同法を廃止し、新法「障害者総合福祉法(仮称)」をつくることとなりましたが、論議の中核となる障がい者制度改革推進会議の総合福祉部に情報提示がないまま、支援法そのものの一部を改正する法律案が出されるなど、新法の成立に向けては、注視が必要となっています。

また、本会においては、公益法人改革による新法人への移行や保険業法改正に伴う入院者付添互助会の事業展開など組織そのものの方向性の選択が必要となっています。

このような状況の中、障がいのある人、ご家族、会員の皆様の思いの実現に向け、全力を尽くしてまいりますので、前任者と変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

常務理事・事務局長
佐藤 三洋

●略歴
1950.12.25 函館市生まれ(0型)
1973~2010 北海道職員として、渡島、網走、空知、石狩支庁本庁等に勤務し、主に保健、福祉業務に従事。



特集：6.9緊急フォーラム 障がい福祉の明日を拓く2010

届けよう私たちの声を!

参議院選挙を目前に、私たちの声を再度国会に届けたく、フォーラムを開催した。ホールのスクリーンには参議院議員の役割や選挙などの説明が映し出される中、全道各地から570余名が集い「地域で暮らす仲間の声」「働く仲間の声」「お母さんの声」「家族の声」を各政党に声のボールとして投げたが、その後の指定討論で参加者が期待したとおりの声のボールが返されたのだろうか。

地域で暮らす仲間の声

私は月形町のケアホームに住んでいます。年は56歳です。映画が好きで今、ブルーレイレコーダーを買おうと貯金をしています。

しかし、年金はケアホームの家賃で無くなってしまい、自由に使えるお金は6千円くらいです。映画館までは遠く、移動支援を使わなければなりません。月形にはレンタルビデオ店もないので借りることもできません。映画館の近くに引っ越すにしても都会のケアホームは家賃が高く住めません。今後、ケガや病気でもしたらと思うと不安です。

一緒に暮らしている仲間も何かを我慢して生活しています。自分の好きなことが半分もできません。

ケアホームで生活しているひとたちのためにも国で補助してください。(原文抜粋)

働く仲間の声

札幌市のグループホームで暮らしていますが、地域での生活は決して楽ではありません。僕は水産会社に就職できましたが、ほとんどの人は就職できず年金だけの生活です。地域生活にはお金がかかります。携帯電話も持てないし、年齢が高くなって病院に行くことも増えてきて通院代が不安です。僕には自立支援法のことはいくら

やさしく教えてもらってもさっぱりわかりません。法律が新しくなると言われましたが、あまり期待はしていません。でも何とかしてほしい!人並みの暮らしをさせてほしいです。今の悩みはいつまで仕事ができるのか、健康でいられるかということ、あともう一つ、いい人がいればぜひ結婚をしたいと願っています。(原文抜粋)

お母さんの声

6歳の子どもが重度の自閉症児。パニックや問題行動があり、私もパニックを起こした。正直、殺人や自殺も考えた。この子のためにきょうだい寂しさの余り幼稚園に行かなくなり、その後不登校になった。どうか母親支援の術を考えてほしい。今の施設と出会い早期療育の大切さを強く感じている。



家族の声

100%財政の裏づけのある福祉法を望む。三障がいの一元化は基本理念

としては理解するが、支援政策はそれぞれの障がいで考えて欲しい。福祉を政争の具にして欲しくない。挙党体制で親族亡き後の障がい者にとって安心して暮らせる法律を望む。さらに、障がい者雇用率を再検討して欲しい。23年度末で送迎サービス加算が廃止されるが継続を望む。

参加者の声・声・声...

- 各政党から参加していた方は、発言者の提言に光を当てて欲しかった。
- 政党の発言がマニフェストから一歩も出ておらず予想通りであった。
- 多少具体的なこと(例えば知的障がい者の高齢化対策など)について発言があるかと思ったが無かったのは残念であった。
- 国民のライフスタイルについて真剣に取り組んで欲しい。そのスタイルが明確ならば、障がい児・者・老のライフスタイルはデザインできる。
- 政党の方は福祉に少なからず関心を持っているように感じた。国会会期中なので無理とは思いますが、立候補予定者自らの参加があればよかった。
- 利用者に対する選挙啓発の意味においては、意義のあるものであった。ただ、どうしても専門用語が飛び交っていた。致し方ないのであろうが、後は職員フォローに期待したい。

The posters contain the following text:

- 選挙・投票** 選挙とは何? (Election and Voting: What is it?)
- 選挙とは...** 私達の暮らしについて (Election is... about our lives)
- 候補者** だれが いかな? (Candidates: Who and how?)
- 選挙とは自分** 選んだ人や政党を 書いて (Election is about the person you choose or the party)
- 選挙とは自分** 選んだ人や政党を 書いて (Election is about the person you choose or the party)
- 選挙とは自分** 選んだ人や政党を 書いて (Election is about the person you choose or the party)
- 選挙とは自分** 選んだ人や政党を 書いて (Election is about the person you choose or the party)
- 選挙とは自分** 選んだ人や政党を 書いて (Election is about the person you choose or the party)
- 選挙とは自分** 選んだ人や政党を 書いて (Election is about the person you choose or the party)
- 選挙とは自分** 選んだ人や政党を 書いて (Election is about the person you choose or the party)
- 選挙とは自分** 選んだ人や政党を 書いて (Election is about the person you choose or the party)
- 選挙とは自分** 選んだ人や政党を 書いて (Election is about the person you choose or the party)

気持ちは 次の選挙?

今回のフォーラム開催にあたって、協会から解りやすい選挙の資料が示せないかと相談がありました。選挙では、難しい表現や言葉が多く使われますので、当事者の皆さんにとって選挙とは何かというイメージが

とても難しいと思います。支援者には投票方法や選挙に立候補する方について解り易い説明が求められます。絵や写真、スライド等を使って出来るだけ短く、解りやすく説明することが合理的な配慮の1つの入口であり、今後

益々求められてくることだと感じこの資料作成を行いました。

ハローENJOY岩見沢 施設長 橋 正樹

コラム

われとわが環境

社会福祉法人新生会 常務理事 林 拓

その人の周囲をとりまく環境というものは、その人の性格とか、その人の進むべき道とかに、非常に大きな影響を及ぼすものである。

歴史上、大きな足跡を残した偉人も、思想家も、文豪も、詩人も、奸人も、破壊者も、あらゆる人々が、大なり小なりこの定義に支配されている。

何という大きな力だろう。しかも環境はその力を人間の上にゆっくりと、けれども間断なく及ぼしている。数

知れない沢山の人々は、この環境の力に支配されて偉大なる、尊敬すべき人格を作り上げた。そして、また数知れない沢山の人々が知らず知らずの中に、環境によって精神的に進歩の跡を残して行く。よい環境を恵まれた人達は、何という幸福者だろう。反対に、何も知らずにいる間に悪い環境に動かされて、次第に退歩しつつある人々は、また何という不運な人間だろう。

私は、まだ歩んで来た道の短い、未熟な者である。自分を離れて我を見ることに未熟な人間である。自分に環境が、私にとって今如何に影響しつつあるかということに明察するには、まだ余りに若い。しかし、古くより「英雄は自らの環境を作る」と言われる。私は、自分の環境が私の目的、理想に向かって、何らかの大きな助力を与えてくれるようにと常に願っている。

平成22年度「愛護福祉賞」を受賞されました。おめでとうございます。

支援研究委員を紹介します。「福祉にかける想い」



後志知的障がい福祉協会
福澤 潤 (ふくざわ じゅん)
余市幸住学園

よく福祉は、「3K」と言われますが、僕は「6K」だと思います。感動。輝き。金で買えない。を付け加えておいて下さい。

福澤



日高胆振知的障がい福祉協会
百海 直樹 (ひやっかい なおき)
大滝学園

利用者の方々がより良い生活が送れる様にサポートしていければ良いと思います。みなさまよろしくお願ひします。

PEANUTS
THE WORLD FAMOUS



札幌市知的障がい福祉協会
中上 拓也 (なかうえ たくや)
この実サポートステーション

北海道に移り住み、11年が経ちました。まだまだ、未熟な職員ですが、障がいのある方々に寄り添い成長していきたいと思ひます。



後志知的障がい福祉協会
倉田 みき (くらた みき)
松泉学院

福祉施設に勤務し、早20年になります。これからも障がいのある方々と共に生活し、彼らの思いを伝えていこうと思ひます。



道東知的障がい福祉協会
松尾 淳司 (まつお じゅんじ)
向陽園

支援者の役割は「利用者の本当の笑顔を作ること」であります。共に笑い合う時間が作れるように頑張ります。



道東知的障がい福祉協会
山形 真一 (やまがた しんいち)
さわりび学園

我々は大きな夢と希望を持ち続けて、当事者が当たり前の生活、すみよい社会となるように情報発信していきたい。



北・北海道知的障がい福祉協会
山科 勝 (やましな まさる)
南富良野からまつ園

福祉に携わる者として利用者さんに寄り添った支援を進めることにより自分自身も幸せを感じることを信念に抱いています。



日高胆振知的障がい福祉協会
有城 雅章 (ありしろ まさあき)
ポプリ

障がいがある利用者の皆さんが幸せだと思える様な人生を送っていただけるように今後も精進して参ります。



空知知的しょうがい福祉協会
松田 愁司 (まつだ しゅうじ)
ハローENJOY岩見沢

「福祉」が特別な場所で行うものではなく、社会の一部として自然にあるべきものとなりますように。



空知知的しょうがい福祉協会
桑原 正人 (くわばら まさと)
ないえ

自分が描く福祉像は、まだ真っ白の未熟者です。ただ、この仕事に就いて本当に良かったと心から思えます。



札幌市知的障がい福祉協会
田邊 義勝 (たなべ よしかつ)
グリーンホーム厚別

支援研究委員として、各事業に関わらせて頂くことにより「横のつながり」を大切に2年間充実したものにしたいと思ひます。



北海道知的障がい福祉協会
岩田 一実 (いわた かずみ)
新生園

利用者一人ひとりの想いを大切に。そして実現して行けるよう、今出来ること、新しいことを精一杯頑張ります。

次世代を担う若きスタッフに期待する ～自己実現へのステップ～

社団法人北海道知的障がい福祉協会
支援研究委員会担当理事 日向 透

社団法人北海道知的障がい福祉協会の平成22年度が新体制のもとスタートした。支援研究委員会も新人10名が新たに加わり、田邊新委員長の下、平成22年23年の事業を担うことになった。私がなぜにこの文章を書いているかというと、今年度より新しく支援研究委員会の担当理事としての大役を任命されたからである。初仕事がこの原稿作成、私が最も苦手とするところの「作文」である。橋会長と事務局(編集委員も)の人遣いの荒さに、いささか「嫌気(快感か?)」が差してきた昨今である。(これ以上書くと風あたりが強くなるので...)

さて、ポヤキはこれくらいに本題に入るとする。支援研究委員を含め次世代を担う人たちが職務を遂行していく上において、難しい課題や未知の領域にチャレンジしなければならぬ時がしばしばある。それをネガティブに捉えると辛く感じたり、逃げ出したくなることもある。だが、ポジティブに捉え、自分を成長させる絶好のチャンスと思ひ、果敢にチャレンジすることを勧める。熟慮の上での失敗なら、財産として残る物が大きいはずだし、再チャレンジも可能である。若い創造力と実行力で積極果敢に挑んで欲しい。

また、業務の推し進める中で上の者などに任せるのではなく、「自分自身が主体となってやる」という意識を持ち自分という者の存在意識を絶えず実感し、自己実現のステップを着実に一段ずつ上がって行くことを切に願っている。

最後に選ばれた支援研究委員の皆さんが2年間の任期を満了し、「お疲れさん！」の杯を上げた時、周囲から「近ごろの若い奴らは...大したものだ！」と評価され「次期もやれ」と、言われることを大いに期待する。

支援研究委員の皆さん、楽しい写真をありがとうございました。

Information 7月～12月

事業名	実施期日	開催地
北海道知的障がい者芸術祭みんなあーと（展示） （ステージ）	22.9/22～26 22.9/26	かでの2・7
地域生活支援セミナー	未定	札幌市
グループホーム・ケアホーム等スタッフ研修会Ⅰ	22.8月	札幌市
グループホーム・ケアホーム等スタッフ研修会Ⅱ	未定	釧路市
グループホーム・ケアホーム等スタッフ研修会Ⅲ	未定	旭川市
幹部職員研修会	未定	札幌市
現任職員研修会	未定	札幌市
入所授産施設部会研修会	22.8/5～6	札幌市
通園・児童施設職員研修会	22.11/11～12	小樽市
特別研修Ⅱ 経営セミナー	未定	札幌市

■体育行事

事業名	実施期日	開催地
全道施設職員軟式野球大会	22.8/28～29	富良野市
全道パークゴルフ大会	未定	

■全国大会

事業名	実施期日	開催地
第48回全国知的障害関係施設職員研究大会	22.9/30～10/1	和歌山県

追悼 砂子 淳一

静内桜風園 村田 修

砂子さんと出会ったのは1990年7月、私が札幌あゆみの園（重症心身障がい児施設）で仕事を始めて間もない頃でした。スウェーデンを中心とした海外研修から戻ってきたばかりの砂子さんから、「重症心身障がい児・者の人権の擁護とQuality of Lifeの追求」と題した報告書を照れながら渡されたことを思い出します。

その報告書は砂子さんがアウシュヴィッツ強制収容所を訪ねたところから始まります。人間というものを直視し、さらに障がい者の人権を思うときに避けられることができない場所がアウシュヴィッツ強制収容所だったのでしょ。昨年12月3日、第5回全国日中活動支援部会職員研究会（神奈川大会）では「支援の本質を語る」をテーマにシンポジストの大役を務めていました。哲学や文学の先人たちの言葉を用い、私たちが生きている現代はどんな世界なのか、生きる意味とは何か、そして支援の本質とは何かを問いました。迫力ある話に参加者は圧倒されたことでしょう。北の沢デイセンターに砂子さんの思いが

結集してきていることも感じました。帰りに、新横浜の駅でビールを飲みながら研修会の感想を語り合いました。利用者の思いに沿った素晴らしい取り組みに触れたことで、私たちは興奮していたのかも知れませんが、砂子さんは終始笑顔でした。「砂子さんは、たくさん本を読んでいるんだね」と私が聞くと、少し間を置いて「本を読むのが好きなんだ」と相変わらず照れながら答えてくれました。

桜の花が散るのを見届け、その後を追うように逝ってしまいました。

人間が生きているということ、死を見つめること、そして障がいを持つ人たちへの支援の本質を真剣に考えた人がいたことを忘れません。ありがとう、さようなら。

前通所更生施設部会長 砂子淳一さん（北の沢デイセンター施設長）が5月30日終命されました。地域生活の支援に心血を注がれた砂子さんのご冥福をお祈りいたします。（享年56歳）